

事業名	関連部署	事業内容	令和4年度実施内容
<b>基本施策1 地域におけるネットワークの強化</b>			
自殺対策連絡協議会	保健予防課	関係機関及び行政機関が連携し、総合的かつ効果的な自殺対策の推進を図るため自殺対策連絡協議会を開催します。	令和4年度から、令和3年度に自殺未遂者対策の連携を開始した墨東病院と東京女子医科大学附属足立医療センターが委員に加わり、自殺の実態把握、葛飾区自殺対策計画の推進、関係機関との連携等の協議を行いました。（令和4年12月2日開催）
自殺対策検討分科会	保健予防課	庁内関係各課が連携し、自殺対策について検討する場として、自殺対策検討分科会を開催します。	相談内容ごとのつなぎ先を確認し、各課の連携を強化したとともに、自殺の実態把握、葛飾区自殺対策計画の推進、関係機関との連携等の協議を行いました。（令和4年11月16日開催）
自殺対策相談窓口連携会議	保健予防課	令和2年3月に策定した『葛飾区自殺対策計画』に基づき、「地域におけるネットワークの強化」として、「自殺対策相談窓口連携会議」を新規に立ち上げました。各種相談窓口が連携し、自殺対策について効果的、効率的な支援体制を構築します。	令和3年度の自殺統計について情報共有したとともに、各課の取組を報告しました。また、相談内容ごとのつなぎ先を確認し、各課の連携を強化しました。（令和4年10月31日開催）
<b>基本施策2 自殺対策を支える人材の育成</b>			
一般区民への研修	保健予防課	区民の方にゲートキーパー研修を受講してもらうことで、身近な人が抱える問題等に気づくことができ、必要に応じて適切な窓口へつなぐ等、気づき役、つなぎ役を担えるようにしていきます。	自殺対策では、様々な悩みや困難を抱えている人に対して、早期に「気づき」、「受け止め」、適切な関係機関に「つなぐ」ことが重要です。これらを行う人材を育成するため、ゲートキーパー研修・講座を実施しています。 令和4年度は、ゲートキーパーとして家族や友人等の身近な人の悩みに対応できるよう、区民向け研修の回数を増やしたほか、小中学校の保健主任向けも実施しました。研修の受講者には、相談窓口を確認できるQRコード入りの修了証を交付しました。
区職員向けゲートキーパー研修	保健予防課・人材育成課	区職員を対象としたゲートキーパー研修を実施し、区民の心の危機のサインに気づき、寄り添い、受け止めるなど、自殺を防ぐために必要な知識やスキルを身に付けていきます。	【令和4年度ゲートキーパー研修 実施状況】受講者数 170人（R5年1月10日現在） <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向け（保健主任） R4年5月31日 総合教育センター</li> <li>・区民向け 7月17日 ウィメンズパル</li> <li>・区職員向け（管理監督者） 11月10日 ウィメンズパル</li> <li>・区職員向け（一般職員） 11月11日 ウィメンズパル</li> <li>・区民向け 12月1日 ウィメンズパル</li> <li>・民生委員向け R5年2月～3月予定 場所未定</li> </ul>
教職員向けゲートキーパー研修	指導室・保健予防課	教職員を対象としたゲートキーパー研修を実施し、児童・生徒の心の危機のサインに気づき、寄り添い、受け止めるなど、自殺を防ぐために必要な知識やスキルを身に付けていきます。	

事業名	関連部署	事業内容	令和4年度実施内容
<b>基本施策3 区民への啓発と周知</b>			
自殺予防週間の啓発活動	広報課・保健予防課	<p>国の自殺予防週間や、都の自殺予防月間に合わせ、講演会やパネル展、横断幕の設置、区のホームページなどで周知を行います。9月と3月の自殺対策強化月間に、広報かつしかやかつしかFMなどで自殺対策の紹介を行い、区民への周知・啓発を行います。</p>	<p>東京都の自殺対策強化月間である9月及び3月に、区も積極的に普及啓発を行っています。</p> <p>令和4年度は、普及啓発方法を見直し、自殺予防に関するパネル展示や、広報かつしかの特集記事掲載に加え、新たに区民ホール電光掲示板への掲載や、相談窓口案内カードの作成・配布（令和5年3月予定）を実施しました。</p> <p>① パネル展示 葛飾区役所区民ホールで、「自殺に関する相談窓口の紹介」や「うつ病・健康に関する知識の普及啓発」に関するパネル展示を行いました。</p> <p>② 区民ホール電光掲示板への掲載 葛飾区役所区民ホールの電光掲示板に、セルフストレスチェックや相談窓口の紹介等自殺予防の情報を掲載しました。</p> <p>③ 相談窓口案内カードの作成・配布 相談窓口を掲載したカードを作成し、区施設のトイレに設置します。 (令和5年3月の自殺対策強化月間に合わせて設置予定。)</p> <p>④ 広報かつしか 自殺対策特集記事の掲載 年2回（9月頃及び3月頃）自殺対策の特集記事（セルフストレスチェックの掲載、健康に関する相談窓口や自殺に関する相談窓口の紹介等）を掲載しました。</p>
区広報媒体を利用した普及啓発	広報課・保健予防課	<p>区ホームページで自殺対策専用のコーナーを設け、区民に情報提供を図ります。区ホームページには、気軽にこころの状態をチェックできる「こころの体温計」を利用できるようにしています。</p>	<p>広報かつしか、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、ラインなどを積極的に活用し、区民や関係機関に向けて普及啓発を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報かつしか（再掲） 年2回（9月頃及び3月頃）自殺対策の特集記事（セルフストレスチェックの掲載、健康に関する相談窓口や自殺に関する相談窓口の紹介等）を掲載</li> <li>・フェイスブック・ツイッター・ライン ゲートキーパー研修・講演会の開催案内や実施報告等</li> <li>・自殺対策に関するホームページの随時更新</li> <li>・こころの体温計 延べ利用者数 24,359人（令和4年4月1日～11月31日）</li> </ul>
相談窓口一覧リーフレットの配布	保健予防課	<p>区民向けの相談窓口一覧を、区民事務所や図書館に設置するとともに、中学生にも相談窓口一覧を作成し、全員に配布し周知を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口リーフレット配布 区内施設、各課窓口等に配布しました。（計2,000部） ※令和4年度から、リーフレットのデザインを一新し、支援者向けの内容から当事者向けの内容へ変更。</li> <li>・ハンカチ型リーフレット配布 児童・生徒向けの電話相談窓口を周知するため、ハンカチ型リーフレットを区内の新中学1年生に配布しました。</li> </ul>

事業名	関連部署	事業内容	令和4年度実施内容
自殺対策講演会	保健予防課	自殺に関連の深い、うつ病、依存症、統合失調症などの精神疾患をテーマに、講演会を開催します。	<p>【講演会の実施状況】</p> <p>①ウィズコロナ・アフターコロナ時代の女性のメンタルヘルス ～うつや依存症の早期発見とその対応～ 日 時：令和4年7月2日（土） 講 師：吉見 聖伸氏（医療法人社団 成仁病院 精神保健福祉士・公認心理士） 場 所：ウィメンズパル 参加者数：20人</p> <p>②自分でできる心のバランスの整え方 日 時：令和4年10月23日（日） 講 師：藤澤 大介医師（慶應義塾大学病院 精神科医） 場 所：健康プラザかつしか 参加者数：14人</p>
その他	保健予防課		<p>① 区民大学情報誌「まなびぶらす」（31号・32号） 区民大学単位認定講座としてゲートキーパー研修・講演会を掲載</p> <p>② 教育広報「かつしかのきょういく」（149号） 子ども向け電話相談やSNS相談について掲載</p> <p>③ 健康診査事業案内に記事掲載 健康づくり課と協働し、20代30代または3歳未満の子を持つ親向けの健診案内に、「こころの体温計」の記事を掲載</p>

#### 基本施策4 生きることの促進要因への支援

相談事業（女性の自立支援等）	人権推進課	女性が抱える夫婦や子ども、家庭のことなどの様々な悩みや問題にカウンセラーや弁護士が相談に応じます。 また、人権に関する悩みや問題の解決・軽減を図るため相談を行います。	「女性に対する暴力相談（DV相談）」、「（女性のための）法律相談」、「（女性のための）悩みごと相談」、「性自認や性的指向に関する相談」を実施しました。 相談事業に関する周知を今後も継続していくとともに、DV相談、悩みごと相談では、外部の関連機関との連携ほか、庁内関係部署との情報共有も行き、相談者への迅速な対応や支援につなげました。
救急医療機関と連携した自殺未遂者支援	保健予防課・保健センター	区内救急医療機関と連携し、自殺未遂者に対して生きるための支援を行います。	<p>区は、自殺企図や自殺未遂等により医療機関を受診した区民の再発を防止するために、救急医療機関と連携を行っています。当事者の同意が得られた場合、医療機関から情報提供を受け、各保健センターにおいて退院後の相談支援を行っています。 令和3年10月から、従来の区内2医療機関に加えて、3次救急である区外2医療機関と連携を開始し、計4か所の医療機関と連携しています。</p> <p>【連携先の医療機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京慈恵医科大学葛飾医療センター</li> <li>・平成立石病院</li> <li>・墨東病院（3次救急）</li> <li>・東京女子医科大学附属足立医療センター（3次救急）</li> </ul>

#### 基本施策5 あらゆるライフステージにおけるSOSの出し方に関する支援

妊娠中、子育て期の方のSOSの出し方に関する支援	保健センター・育成課・子ども家庭支援課	妊娠期から出産後、子育て中の方で支援の必要な方に、保健師や助産師による家庭訪問等で支援を行います。また、母親学級、育児学級などの各種講座において、困った時の相談に関する情報提供をします。	子ども未来プラザ・各基幹型児童館で講座の実施や日常的な相談事業を実施しました。新型コロナウイルスの蔓延等により、妊娠中から子育て中の方に、保健師や助産師が家庭訪問を実施することは制限されましたが、面接や電話でのかわりの際に、地区担当保健師の紹介や事業の紹介など困った時の相談先の情報提供を行いました。保健センターは児童館等へ出向いての講座や、のびのび測定などでの子育て相談などを実施しました。
児童・生徒のSOSの出し方に関する教育	指導室	児童・生徒が悩みを抱えたときに助けを求められることができるようにするとともに、身近にいる大人や友人も小さな変化に気付き、受け止めるようにすることができるようにするため、各学校において「SOSの出し方に関する教育」に取り組みます。	教育課程内で生命尊重教育を位置付けるとともに、長期休業前等、学期の節目に、自殺予防に係る取組について周知し、各学校において「SOSの出し方」について行うよう指導しました。また、「思いやりカード」を各学校に配布し、相談先等を周知し、一人で悩まないよう児童・生徒に伝えるよう指導しました。

事業名	関連部署	実施内容	令和4年度実施内容
<b>重点施策2 生活困窮者への支援</b>			
生活困窮者自立支援事業	福祉管理課	複雑かつ多様化している課題を抱える生課題を抱える生活困窮者に対し、生活困窮者自立相談支援事業や住居確保給付金の支給などの制度を活用し、自立の促進を図り、本人が安心して暮らせるよう支援します。	アウトリーチ支援は体制を強化し、実施件数を増やして、外出できない世帯を訪問し相談するだけでなく、連絡が取れないなど緊急時の安否確認等も行いました。 また、生活困窮者自立支援法に基づき、関係機関同士の情報共有や連携検討を行う自立支援会議を整備し横の連携を強化しました。
<b>重点施策3 働く世代への支援</b>			
雇用・就労促進事業	産業経済課	就職支援セミナーや合同就職面接会を開催し、地域雇用・就労を支援します。雇用関係助成金の相談窓口・新規雇用への助成金の創設により新規雇用の創出及び雇用の安定化を図ります。	自力就職が困難な若年者、女性、シニア層や就職氷河期世代の求職者が増加傾向にあることから、定期的に専用HPのリニューアルやWeb予約の導入等により利便性を高め、新規利用者の獲得に取り組みました。その他施設内に求職者用のPCを設置し、応募書類の作成をできるようにし支援を強化しました。 また、求職者向けのセミナーやグループワークを実施し、求職者の能力向上を図り、求職者の就職・再就職に繋げました。
<b>重点施策4 子ども・若者への支援</b>			
発達相談事業	子ども家庭支援課	子どもの発達などに悩む保護者に対する相談体制を充実させるとともに、区内の幼稚園・保育園等職員に対し、子どもの発達の視点による助言を行い、保育のスキルアップを図ります。また、5歳になる児を持つ保護者へアンケート調査を通じて相談を行います。	コロナ禍の保護者の不安等に丁寧に対応し、必要に応じてオンライン面談を実施しました。子育てセミナーでは、グループ形式の講演会を初めて企画しましたが、コロナの影響でオンラインに形式を変更して実施し、悩みや不安解消の機会を設けました。子どもへの関わり方や対応方法を提案し、子育てのしづらさの解消や子どもが自己肯定感を高められるよう支援しました。 保育者等への研修やコンサルテーションについては、訪問ができない場合には積極的にオンラインを活用しました。それにより発達相談の悩みについて対応する機会を設け、発達障害や保護者対応についての理解を深められるようにしました。